

職場体験感想文コンクール2025

タイトル	感謝と発見の瞬間	事務局	205
学校名	酒田市立第二中学校	氏名	田中 彩音

私は中学二年生になってから将来について迷っていた。

新たに教師になりたいと思ったからだ。しかし、生徒側からしか見たことがなかったので、私は今回の職場体験で小学校を希望した。もっと知りたかった。「教師」というものを。

私は職場体験の二日間、「酒田市立若浜小学校」に行った。

一日目は、運動会の補助だった。準備や片づけ、種目の補助など休む暇もなかった。想像した以上の仕事の量に「教師とは、こんなに疲れるのか。」と初日から思ってしまった。しかし、新しい発見もあった。

一、二年生が行う玉入れの補助をしていた時、「枠の外に出た玉を戻してほしい」と頼まれた。最初は気づけなかったが、児童のことを考えての行動だと後になって気がついた。児童のことを一番に考えて、行動している先生方の姿に自然と心が温まった。運動会という特別な場面での職場体験は、私の心に深くささった。

二日目は、授業補助、校務員の仕事体験などがあった。

授業補助は五年生の算数と習字だった。特に算数の授業は新たな発見がたくさんあった。問題の解き方や解答をほとんど児童に聞いていた。「人に教えるときは、答えではなく、ヒントや解き方を教える」日頃から言われている言葉の意味をようやく理解することができた。そして、「同じです」や「～さんの言葉につけたして」などの反応を児童たちがしていた。自分たちで理解を深め、共に学ぶ合う空間を見ることができて幸せだった。

校務員の仕事体験では扇風機の掃除をした。夏に各教室で使用した扇風機を掃除し、屋上手前の階段まで運ぶという作業だった。普段、学校で使用しているもののほとんどが細かいところまで手入れされているとわかったとき、校務員の方々に感謝

しなければと思った。

あという間に終わってしまった。職場体験は、想像していたよりもたくさんの学びがあった。学校という学びの場で、教員から児童へ、児童から児童へと繋がる瞬間を見ることができた。

「教師」とは、日々の生活乗り越える体力や児童のことを一番に考える必要があるとわかった。職場体験を通して私の将来が

「教師」一択になったわけではないが、中学校に戻ったとき、授業の中にある工夫をいつもより見つけることができ、先生方への感謝の気持ちがより強くなった。